

第11回旧RD最終処分場問題連絡協議会の開催結果

■日 時 平成27年1月29日(木) 19:00～20:45

■場 所 栗東市コミュニティセンター治田東

■質疑概要

1. 平成26年度第3回モニタリング結果について

◇電気伝導度と塩ビモノマーについてNo.1井戸とH24-2井戸での変化は連動していると考えてよいのか？

→電気伝導度については現時点では何とも言えないが、塩ビモノマーについては連動していると考えていますと、回答しました。

◇これまで安定していた浸透水のNo.1揚水井戸の砒素の値が大きく変動しているのは何故か？記録に残すべきではないか？

→揚水によって浸透水位が低下し、これまでとは違った位置からの浸透水が井戸に流入している可能性があることと、雨水の流入による希釈の影響のためと思われます。記録に残してはとのご指摘を踏まえ、資料の記載方法を検討しますと、回答しました。

2. 底面遮水工における事前調査ボーリング結果等について

◇D工区の粘土層の欠損範囲はもっと東側に広がる可能性があるのではないか？

→その可能性もあるので、No.10-11以外にも2箇所ほどボーリングの追加を検討しています。おって追加ボーリングの位置、結果はお知らせしますと、回答しました。

3. 鉛直遮水壁の施工について

(資料3-1)

◇一軸圧縮強さで、ブロックごとの差が出るのは何故か？粘土が多くなると弱くなるのか？

→土壌の成分に砂が多いか、粘土が多いかで、値が変わり、粘土が多いと一軸圧縮強さは低下しますと、回答しました。

◇これだけバラつきが大きいと、耐用年数について信頼が出来ない。試験は1000㎡に一回でよいのか？

→1000㎡に一回という基準はTRD協会が出しているもので、これまでの長い経験に基づいて決められた基準であり、ブロックごと最低値が基準値をクリアすれば、耐用年数については問題ないと考えていますと、回答しました。

◇500 kN/m²は何を基準に規格値としているのか？

→TRD 協会の規格値です。なお、現状の地盤のN値を強度に換算すると約300kN/m²となるので、それよりもやや硬い物を作るということで、TRD協会の規格値 500 kN/m²を使っていますと、回答しました。

(資料 3-2)

◇追加ボーリングに当たってのお願いであるが、当該箇所は栗東市の処分場があった場所で、ゴミと土がサンドイッチになっており、土が出てきてもその下に更にゴミがある可能性があるのでは、しっかり確認して欲しい。

→了解しましたと、回答しました。

4. 選別施設の稼働について

◇ボタン電池は回収できるのか？バケツ一杯の量ではどうか？

→25 mm以下なので土砂に入ってしまう可能性が高いが、磁力選別で取れる可能性もあり、出来るだけ取れるよう努力しますと、回答しました。

◇一次対策で出てきた点滴ビン、プラスチックビン等はどのくらい取れるのか？

→これまでの経験から医療系廃棄物は寄り集まって出てくることが多いので、現場で見つけることが出来るのではないかと考えていますと、回答しました。

◇初期段階は慎重に作業を行って欲しい。

→オペレーターが発見することもあるので、慎重にさせていただきますと、回答しました。

◇ベルトコンベアに流れてくる量を少なめに、スピードもゆっくりやって欲しい。

→定期的に調整しますと、回答しました。

5. その他

・責任追及の状況について

◇答えにくいなら記録にとどめるだけでもよいが、県は関係者への責任追及に支障があるからと、住民への情報開示を認めなかった。情報を開示し、住民と一緒に対応を考えようとしなかった県の態度が間違っていたことを認めるべきである。

→県の考えを整理したいと、回答しました。